



県南社教TIMES

～夢と希望をはぐくむ県南の教育～

令和3年1月14日発行 第23号 福島県教育庁県南教育事務所

親子の学び応援講座・家庭教育支援プログラム

家庭における教育を支援するために県では、「親子の学び応援講座」、県南教育事務所では、「家庭教育支援プログラム」を実施しています。どちらも、家庭教育を充実させるための講演会を行う際の、講師を紹介する事業です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭教育学級等の講演会実施が難しかったようです。そのような中でも当事務所に2校から依頼があり、講師の紹介をさせていただきました。

西郷第一中学校区PTA

11月19日(木)熊倉小学校を会場として「親子の学び応援講座」を実施しました。西郷第一中学校区PTA教育講演会では、講師に、親業訓練シニアインストラクターの大屋弘子様をお迎えし、「親業～数値化できない力を育む」～大切なのは家庭内でのコミュニケーション～という演題で講演をしていただきました。

参加者は、「子どもの心を開く聞き方」「子どもの心に届く話し方」「対立したときの解決法」について、寸劇やロールプレイで体験しながら学びました。

三神小学校PTA

9月4日(金)三神小学校において「家庭教育支援プログラム」を実施しました。

三神小学校のPTA教育講演会では、「テレビやゲーム、インターネット等のメディアとの上手な付き合い方」という演題で、PC-TRY代表の佐藤裕様に講演をしていただきました。

参加者は、子どもをめぐるネット社会の現状(犯罪・依存等)や子どもを守るためのルールづくり(ペアレンタルコントロール等)について、具体例をもとに学びました。



親子の学び応援講座(熊倉小学校)



家庭教育支援プログラム(三神小学校)

第2回地域連携担当教職職員等研修会

学校と地域との連携・協働について基礎的な知識を身につけ、地域と共にある学校の実現に向け、地域学校協働活動の推進について学ぶことを目的として標記研修会を実施しました。第2回目となるこの研修会は、オンラインで実施し、「学校と地域の連携・協働による事例発表」をもとに、その望ましい在り方について考える機会となりました。

「平田村立小平小学校」と「道の駅ひらた」の連携・協働(子どもたちが育てたサツマイモを使ったイモ菓子を道の駅で販売した取組み)について鼎談という形で発信しました。研修会に参加した方からの感想は、裏面をご覧ください。



鼎談の様子(11/2)

第2回地域連携担当教職職員等研修会の感想

○本校における連携の在り方を探っていかなければならないと思います。本校ならではの、この地域ならではのといった視点を持ちつつ、計画を進めると共に、実践を積み重ねられるような環境整備に努めたいと思います。小平小学校さんの取り組みを参考にしながら、探っていきたいと思います。



○まず、オンラインでの研修の可能性について様々に工夫されていたことが、今後の校内でのオンライン授業などリモートで行う活動についての方向性となり、参考になりました。次に、研修会については、特に身近な地域との連携における生の声を聞くことができ有意義であったと思います。教員にとって地域と連携していくことは、どうしても敷居が高いように感じてしまいがちですが、学校と地域の双方が有意義と感じられる連携の仕方を今後も模索していきたいと思いました。今後、学校運営協議会の設置したコミュニティ・スクールが増えてくることと思います。地域連携と合わせて、それらについても教職員が研修をして備えておかなければならないと感じています。

○地域連携として地元道の駅との協働の仕方を見せていただきありがとうございました。担任の先生と駅長さんとの交流に地域連携担当の先生が関わっていったのがとても自然で素敵な流れでよかったと思います。そのときのタイミングなどもあるのですが、チャンスを生かしたすばらしい取り組みだったと思います。最近、地域おこし協力隊の若い方が来町され、自転車のイベントが行われています。地域に関わる方の取り組みを児童に見てもらい、「地域とのつながった感」を感じて生活したり、成長したりしてもらえればと思っています。



○ICTに不慣れな私でも参加できるように細かくご指示頂きありがとうございました。唯一、「スポットにしてください」はわかりませんでしたが、特に不都合はありませんでした。このような方法で研修会が実施できるのであれば、内容にもよりますが、ぜひお願いしたいと感じました。少しは多忙化解消につながっていると思います。地域連携の在り方については、悩んでいるところです。今年度は特にコロナ禍でできないものがあったり、感染リスクの回避から実施したくない先生や生徒がいたり難しい部分がありました。（本校ではリモートによる簿記研修会の実施等、工夫しています。）全体計画について、事例がいただけるということですので、参考にしながら全体計画を作成するうえで、実施内容・方法を改めて考えていきたいと思います。

○子どもたちは、地域の方とふれあうことで、地域のつながりが強くなると思います。毎年続けていけるような取り組みにするためにも、内容の工夫や学校担当者と地域の方とのつながりを深めることが大切だと思いました。しかし、人材の情報収集の難しさもあると思いました。今後、魅力ある内容を教育課程に位置づけていきたいと思えます。研修会、とても勉強になりました。



県南教育事務所のグーグル・ドライブに「地域連携・協働活動の計画等」を作成しました。ぜひ、教育課程編成にご活用ください。なお、データをアップロードする際、個人情報等は掲載しないようご配慮願います。

“ひがししらかわ”輝くふる郷体験事業

過疎・中山間地域連携事業の一環として、東白川郡内全小学校で実施しています。地域の人材を活用した体験活動を通して、地域の良さを再発見して、次代を担う人材を育成します。



↑サツマイモ収穫（山岡小）10/22



↑ダリア染め（笹原小）11/10



↑源流探検（鮫川小）11/13



↓そばの収穫（山岡小）10/22

